

多摩市愛宕地域の通所介護 施設「笑う門」プロジェクト

多摩大学
釘宮慎也 庄司峻浩 山田皓司
東京家政学院大学
飯野藍子 桑原千穂 越川紗姫

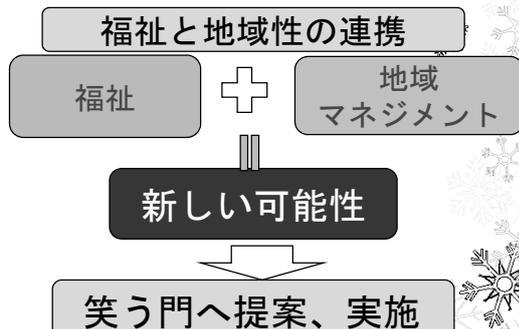
目次

- 1、プロジェクト発足背景
- 2、デイサービスとは？
笑う門とは？
- 3、活動期間、内容
- 4、現状・課題
- 5、企画の方向性
- 6、企画概要
- 7、企画実施報告
- 8、企画実施成果
- 9、来年度
- 10、終わりに



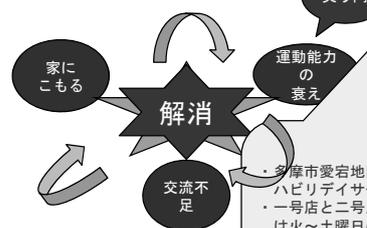
プロジェクト発足背景

私たちは多摩大学が持っている地域マネジメントの知識と、東京家政学院大学が持っている福祉の知識を要して、新しいリハビリデイサービスのプログラムを作成することに惹かれて参加することとなった。



デイサービスとは？ 笑う門とは？

<デイサービス> (通所介護)



<笑う門>

- ・多摩市愛宕地区にあるリハビリに特化したリハビリデイサービス。
- ・一号店と二号店があり、一号店は月～金二号店は火～土曜日の営業となっていて曜日により利用者の数は5～7人と異なる
- ・リハビリの際に理学療法士が個人に合わせてリハビリをマンツーマンで器具を使わずに行う

活動期間

2012年6月から2013年3月

2012年	8月2日	全体ミーティング	本プロジェクトの方向性を具体化
	8月6日～8月22日	実習	笑う門に実習に行き、現状を把握する(各学生が2回ずつ実施)
	9月6日		多摩ニュータウンの現状の把握
	9月20日	大学間ミーティング	これまでの反省・今後の方向性などを話し合う
	10月11日、12日	アンケート調査	利用者のニーズをアンケート調査を用いて把握する
	10月18日	笑う門を交えての全体ミーティング	今後の方向性・企画の提案を行う
	11月29日	東京家政学院大学にて中間発表	これまでの活動報告
	12月27日	笑う門に訪問し企画の説明	今後行う企画の説明を利用者に説明をする
	1月18日	笑う門に訪問し、利用者へ企画の説明	次進行企画の説明を利用者に説明する
	1月25日	企画の実施	プロジェクトゼミ「Tamauni」とのコラボによる企画の実施

現状・課題

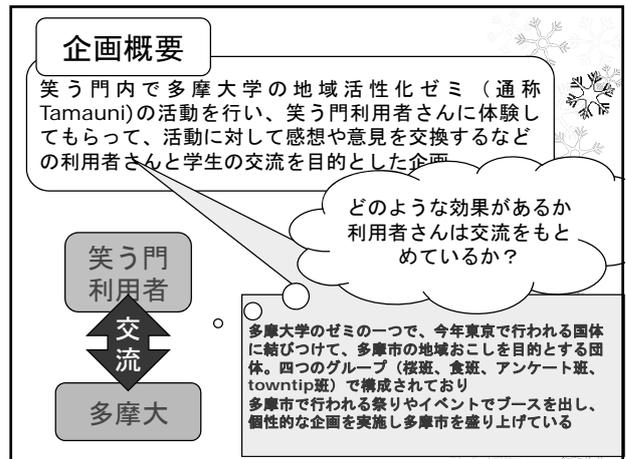
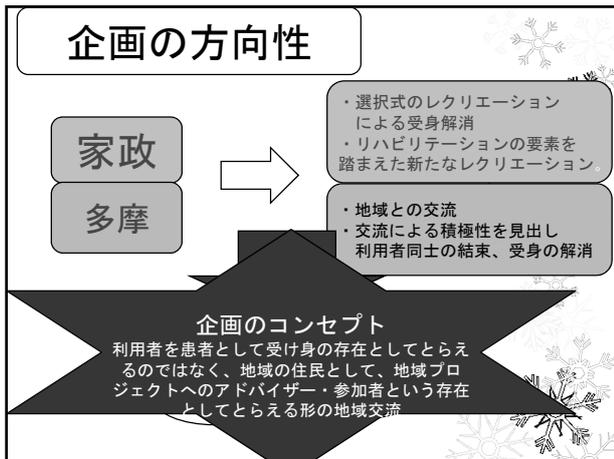
笑う門

- ・毎回同じレクリエーション
- ・個別リハビリ以外の時間の充実
- ・個人に合わせたレクリエーション

実習・アンケート

- ・レクリエーションに対して飽き
- ・曜日によって雰囲気の差がある
- ・自主性の不足、受身の姿勢
- ・家と笑う門の往復

- ・レクリエーション不足
- ・利用者同士の交流不足
- ・地域との交流不足
- ・受身の姿勢



企画実施報告

笑う門一号店、二号店で実施

- ・桜の手形集めに積極的参加してもらえ楽しんでもらった
- ・多摩の魅力を話した際には利用者さんの経験や情報を元にした貴重な意見交換ができた

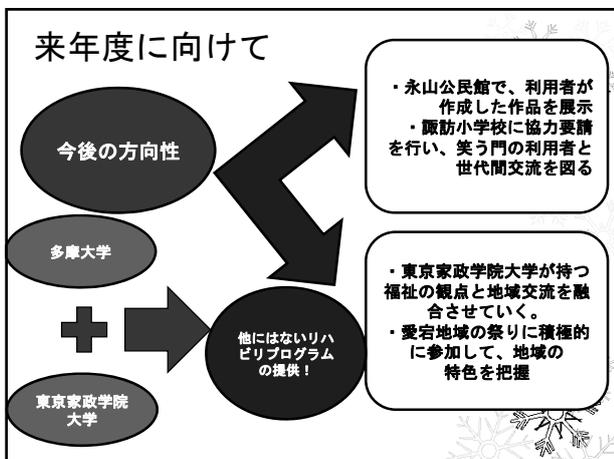



- ・利用者の方々には笑顔が溢れておりまた来てほしい、このような交流の場を作ってほしいとってもらえた

企画実施成果

- ・今回の企画実施は地域交流の面だけになってしまったが、笑う門に地域交流の必要性を見出せ、利用者の積極性も見出せた。
- ・来年度は東京家政学院側の福祉の面を連携させた新たな企画を実施していきたいと思う。





おわりに

今回お世話になりました笑う門の皆様、各大学の教授方、心より感謝を申し上げます。
 また、このプロジェクトについては来年度もぜひ続けていき今回の成果を活かせる新たな挑戦をしていきたいと思っております！

ご清聴ありがとう
ございました

